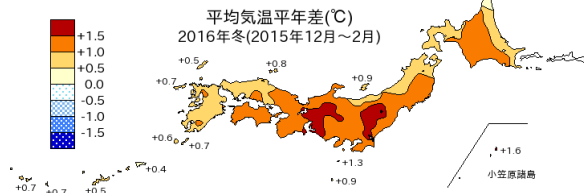


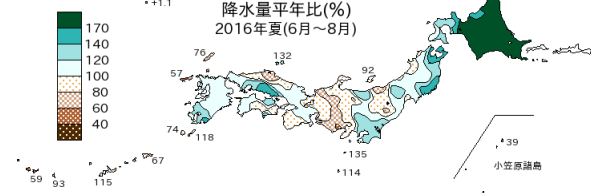
気候系監視年報2016 要約

日本の天候 (2.1)

【2015/2016冬】全国的に暖冬で、日本海側の降雪量はほぼ全国的に少なくなりました。

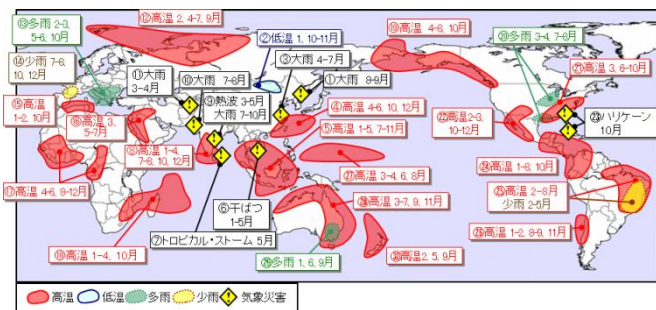


【2016夏】北日本太平洋側では記録的な多雨となりました。

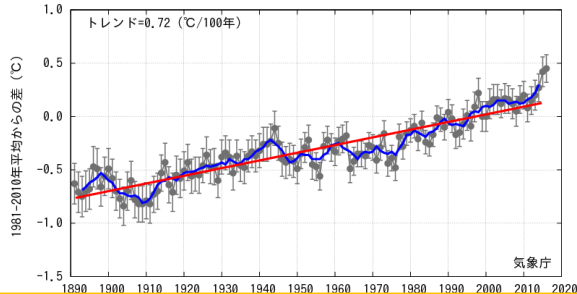


世界の異常気象・世界の年平均気温 (2.2)

世界の広い範囲で異常高温が頻発しました。



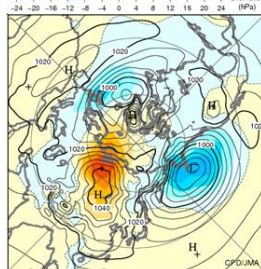
世界の年平均気温は1891年の統計開始以来、最も高い値となりました。



中・高緯度の循環 (2.3)

【冬】1月にはシベリア高気圧の勢力が強まりました。

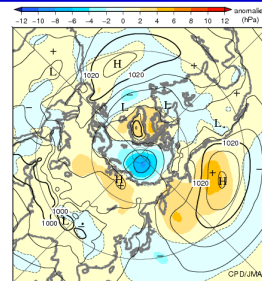
2016年1月の海面気圧
暖色は平年より気圧が高いことを示す



*北極を中心にした図

【夏】太平洋高気圧の日本への張り出しは弱くなりました。

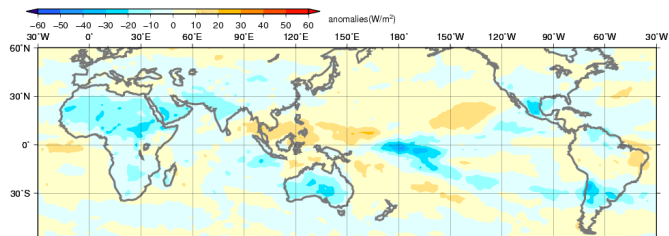
6~8月平均海面気圧
寒色は平年より気圧が低いことを示す



*北極を中心にした図

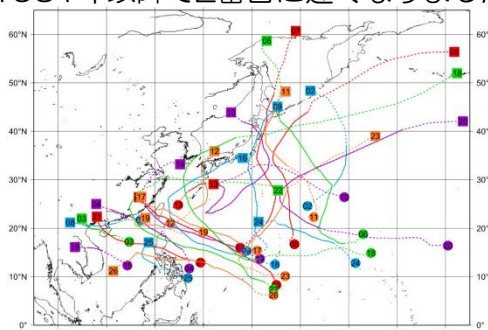
熱帯の循環・台風 (2.4)

2016年春に収束したエルニーニョ現象に対応して、インドネシア付近の積雲対流活動は、春までは平年より不活発、夏以降は概ね平年より活発になりました。



3~5月の対流活動の様子 (寒色は平年より活発な領域)

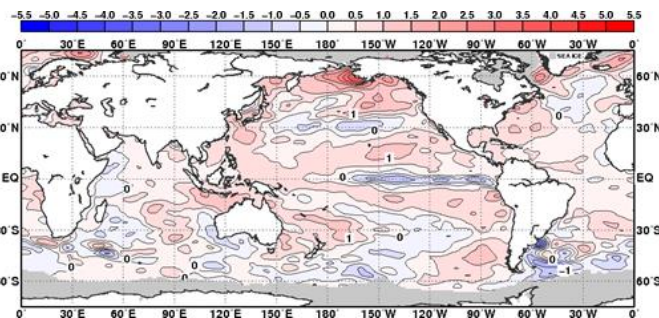
台風の発生数は平年並でしたが、台風第1号の発生は1951年以降で2番目に遅くなりました。



2016年の台風の経路 (●、■は発生、消滅位置)

海況 (2.5)

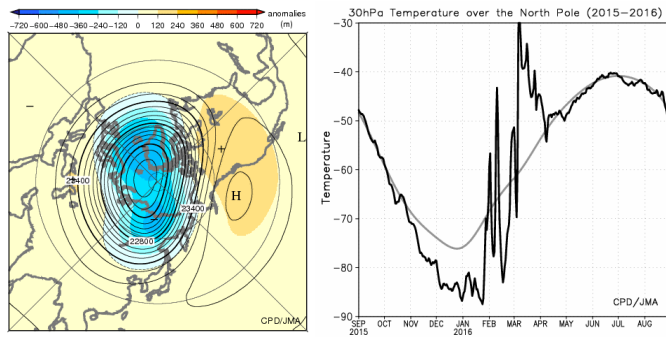
全球平均の海面水温は、夏までは記録的な高温となりました。2014年夏に発生したエルニーニョ現象は、2016年春に終息しました。



6~8月の海面水温偏差
暖色は平年より高いことを示す

北半球成層圏 (2.6)

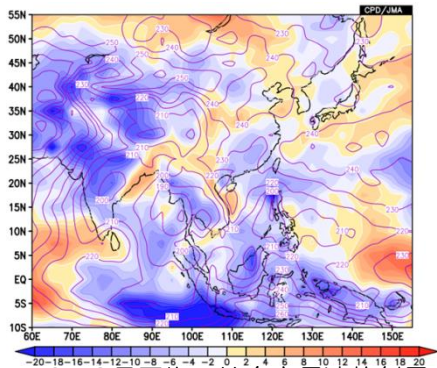
成層圏の極うず（左図の寒色部分）は冬平均では平年に比べて強くなりました。冬季~春前半の期間中、2度の突然昇温が発生しました。



30hPa高度(2015/16冬) 北極点上空30hPa高度における気温の時系列
*北極を中心にした図

アジアモンスーン (2.7)

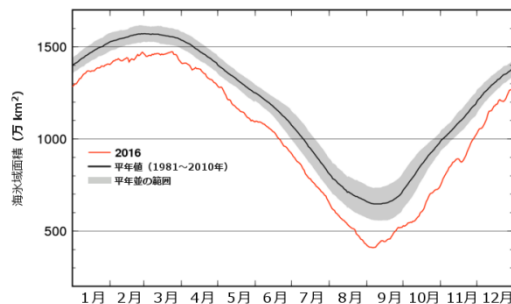
アジアモンスーン全体の活動度は、8月までは概ね平年並、9月以降は平年より活発でした。



6~9月平均の外向き長波放射量
寒色は積雲対流活動が平年より活発なことを示す

北極の海水 (2.8) ・北半球の積雪 (2.9)

北極域の海水面積の年最小値は、1979年以降で2番目に小さくなりました。2月の北半球の積雪日数は平年より少ない地域が多くなりました。



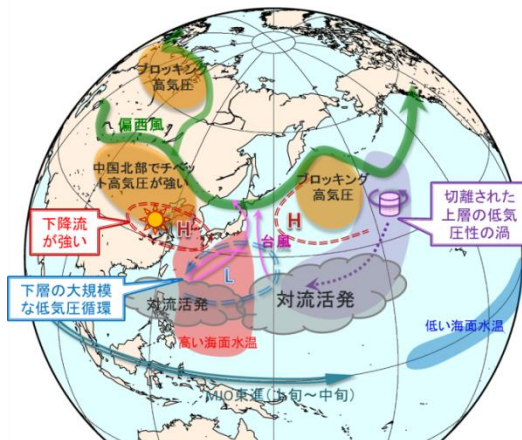
北極域の海水面積

トピックス 2016年8月の日本の顕著な天候 (3.2)

2016年8月は西日本で中旬を中心に厳しい暑さとなった一方、北日本では記録的な多雨となりました。

フィリピン付近の活発な対流活動と、中国北東部付近でのチベット高気圧の強まりに対応して、下降流が強まった西日本では高温となりました。

また、日本の南東海上の対流活発域で相次いで発生した熱帯低気圧（台風）は、太平洋高気圧の縁辺を回るように日本の東海上を進み、北日本に度々大雨をもたらしました。



顕著な天候に関連する大気の流れの模式図